医療秘書

あるあるネタ
•医師の癖字カルテが読めるようになり、「まるで暗号解読」と言われる。
•「ドクター、〇時から会議です」と毎回リマインドしても忘れられる。
•医師と患者、看護師と技師、その間で“翻訳者”的に動くのが日常。

初期の失敗
初めての診療補助で、医師の言葉をそのままカルテに入力したところ、文脈とニュアンスを誤解して記録ミス。言葉には“医療の意図”が含まれると学びました。

職業病
「〇月×日△△科△△先生、14時面談」といった形式が頭から離れず、自分の予定管理もすべて“医療風フォーマット”で考えてしまう。あと、診察中の沈黙に敏感。

健康問題
長時間のパソコン作業・座りっぱなしによる腰痛や眼精疲労、医師との緊張感あるやりとりによる精神的な疲労も。常に「ミスできない」緊張が続く職種です。

その職業に就いている人を讃える
あなたはまさに“医療現場の優雅なるオーガナイザー”ですね。忙しい医師の右手となり、書類・予定・気遣いのすべてを調律し、患者に見えない部分で診療のリズムを整えている。白衣ではなくても、その所作には“信頼の白”が漂っていて、病院という複雑な舞台の裏方として、知性と優しさを同時に届けているのです。どうか、スケジュール帳のすき間に、あなたの休息も刻んで。その細やかさと静かな誇りが、きっと誰かの治療を支えています。